

## 日本航空解雇争議

# 支援を広げ早期全面解決へ

日本航空123便が群馬県の御巣鷹山に墜落して37年目の8月12日、JAL争議の早期解決を求める岡山の会と、JAL被解雇者労働組合（JHU）の神瀬マリ子さんが岡山駅西側通路で、「日本航空は空の安全を守るためにも12年にも及ぶ解雇争議を直ちに解決しろ」とアピールしました。

日本航空の解雇争議は、7月に乗員組合とCCU労組の2組合が、会社と争議終結の「合意書」を締結し、90余人が争議を終結しました。

しかしJHU労組の23人はこの合意に対し「現職場への復帰と、不当解雇による損害の補償を求めてきたのに、補償もなく「業務委託契約」では労働者の権利が守られなかった」として、合意

せず争議が続いています。神瀬さんは「会社は4年前には解決を約束しました」「一刻も早い解決は解雇者の共通の願いです。それにつけ込んだような会社のやり方はひどいと思います」「私たちがJHUは都労委に訴え、会社との団体交渉を継続しています。引き続きのご理解とご支援をお願いします」と話されました。



岡山駅で宣伝する神瀬さん